

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人京都基督教福祉会 児童発達支援のはな教室			
○保護者評価実施期間	令和6年12月6日 ~ 2024年12月24日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54名	(回答者数)	49名
○従業者評価実施期間	2024年11月29日 ~ 2024年12月6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に合わせた支援	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合わせた支援内容を考え、実施している。 所属グループに合わせて小集団で行うこと、個別で行うことを計画しながら実施している。 活動の終わりと始まりが分かるように工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修等に積極的に参加し、職員のスキルアップを図りながらよりよい支援ができるようにしていく。
2	環境・設備	<ul style="list-style-type: none"> こども達の様子、目標、活動内容等に合わせて療育室の中を仕切ったり、部屋の移動をすることも考えながら実施出来ている。 部屋の中で何をすることが可視化できるように、工夫出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もこども達ひとり一人に合わせて限られたスペースの中で心地よく過ごせるようにする。 こども達が、自分でわかって次の行動に繋がるように工夫していきたい。
3	保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の療育時間内にお子さんの様子を保護者の方と共有出来ている。 保護者の方からの相談等に適時対応可能な状況が整えられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告をする内容などを職員の中で共有はしているが、説明不足にならないようにさらに分かりやすく話せるように工夫していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園などほかのこどもとの交流	<ul style="list-style-type: none"> 今の形態では交流や連携が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような形での取り組みであれば可能か検討していく。
2	家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談室で保護者の方が一緒になることは多いが、待機をもらっているのみである。またきょうだいの交流などについては開催していない。 	<ul style="list-style-type: none"> きょうだいの交流などについては、部屋数の課題等で難しいが、きょうだいや家族についての相談はお受けしているので今後も随時実施していきたい。
3	保護者への周知	<ul style="list-style-type: none"> こども達には、当日のスケジュールが見える方法で知らせているが、保護者には十分に周知できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> こども達と同様に、当日のスケジュールが(こども達の活動内容等)を提示できるようにする。